

◆第3回釧路川流域委員会 審議要旨◆

■ 河川・湿原環境

- 釧路川流域の環境を考える場合の区域分けは、土地利用が促進されている地域や、自然河道として存置されている地域など詳細に分けて考える必要がある。
- 流域の土地利用状況で樹林が60%という数字は意外に多いという印象があるが、原野の状態を呈している樹林地、荒れた落葉広葉樹やカラマツ林の植林地等を一括して「樹林地」としている。樹林地の質も捉えて考えるべきである。
- 流域の自然環境を考える場合、支川の状況が重要である。蛇行を残した河川改修など支川も重視すべきである。
- 中流域の動植物に関するデータが少ない。湿原の後背区域や山間区域などの湿原を支えるエリアの情報を取り入れる必要がある。
- 環境と利水は関係が深く、地域で考える課題であるため、自治体や大学生、高校生などが議論できるように、行政サイドからデータ等の提供をして欲しい。

■ 維持管理

- 流域内に釧路湿原国立公園と阿寒国立公園を擁しているため、国立公園の管理と河川管理をうまく連携させて、質の高い流域管理を考えていかなければならない。

■ グランドデザインの検討に向けて

- 各市民団体等に意見の集約をお願いする方法等を活用し、市民レベルの意見を取り入れることが重要である。
- 流域を区域に分けて考えることは必要であるが、流域のグランドデザインは全体的に捉えて考えなければならない。保水力の高い集水域をつくるため、植林や放棄された草地の森林化が必要である。
- 今後グランドデザインを作るときに、漁業や酪農、自然保護関係など立場によって釧路川に対する認識が違っているので、これをグランドデザインにどのようにつなげていくのか手法等を考えていかなければならない。
- グランドデザインについては、第4回、第5回の2回の流域委員会で議論をしたい。

■ その他

- 次回流域委員会の時に現地視察も行う。

◆釧路川流域委員会 委員◆

所属	職名	氏名	出欠
北見工業大学 工学部	教授	内島 邦秀	○
標茶町農業協同組合	組合長	小泉 恒男	×
釧路公立大学(地域経済研究センター長)	教授	小磯 修二	○
(株) 釧路新聞社	記者	佐竹 直子	○
NPO法人トラストサルン釧路	事務局長	杉 沢 拓男	○
北海道旅客鉄道(株)釧路支社	支社長	瀬川 修一	×
釧路自然保護協会	会長	高山 末吉	○
財団法人 北海道環境財団	理事長	辻井 達一	○
釧路水産用水汚濁防止対策協議会	会長	濱 隆司	○
北海道標茶高等学校	校長	古屋 接雄	○
釧路市	市長	伊東 良孝	×
釧路町	町長	菅原 澄	×
標茶町	町長	千葉 健	○
弟子屈町	町長	徳永 哲雄	○
阿寒町	町長	中島 守一	×
鶴居村	村長	鏡者 和三郎	○

◎は委員長
○は副委員長

釧路川流域委員会

NEWS
No. 3

第3回委員会を
平成15年3月17日に
開催しました。



釧路川
流域委員会
とは?

北海道開発局及び北海道では、今後概ね20～30年間の具体的な河川整備の内容を示す「釧路川水系河川整備計画」を策定します。このため、地域住民、学識経験者等から意見をいただくことを目的として「釧路川流域委員会」を設置しました。

● 釧路川の環境面から見た特徴 ●

- 北海道の一級河川では唯一ダムや堰のない川である。
- 水量が多く、流量が安定している。
- 流域に、国際的に貴重な財産である「釧路湿原」を有する。
- 釧路湿原や釧路川の河跡湖には貴重な生物が生息・生育している。
- 釧路川の豊かな自然を満喫するため、近年、カヌー利用が盛んである。



▲流域の水がめである屈斜路湖



▲釧路湿原を流れる釧路川



▲釧路湿原に生息するタンチョウ(国指定特別天然記念物)



▲釧路川でのカヌー利用

釧路川流域で
森林化推進を
委員会報告
釧路川水系の河川整備
計画を策定する釧路川流域
と釧路土壌の諮問機関
「釧路川流域委員会」委員
長・小磯修二氏(左)と
経済研究センター長
は十七日、釧路地方合同
庁舎で第三回委員会を開
き、同水系の河川整備の
現状と課題について意見
を交わした。
釧路川流域の水質を
向上させ、中流、下流
の河川整備を進め、直
接化や両岸のコンクリ
ト化が進んでいる。支
川の河川改修は蛇行を
残すなど、配管を
意見が出た。近々委員
会として現地視察す
る。

▲平成15年3月19日 北海道新聞

釧路川流域委員会
保護、再生を訴える

樹林4割まで減少
住民の理解と意識の向上も

釧路川流域の水質を向上させ、中流、下流の河川整備を進め、直接化や両岸のコンクリート化が進んでいる。支川の河川改修は蛇行を残すなど、配管を意見が出た。近々委員会として現地視察する。

▲平成15年3月19日 釧路新聞

あしたを創る 北の知恵
国土交通省
北海道開発局



釧路開発建設部治水課
〒085-8551 釧路市幸町10丁目3番地
TEL(0154)24-7000
http://www.ks.hkd.mlit.go.jp

北海道釧路土木現業所事業部治水課
〒085-0006 釧路市双葉町6番10号
TEL(0154)23-6111
http://www.pref.hokkaido.jp/kensetu/kn-ksrdg/index.htm

平成14年度 釧路川流域委員会で議論された内容(第1回～第3回)

【委員会の運営】

- 住民意見の聴取においては、地場産業や教育・文化に根付いた一般の方の意見を取り入れるような委員会運営を望む。
- 様々な流域に関する課題解決のためには、源流の問題が重要であり、流域6市町村や農業関係機関と連携を図ることが必要である。

【ランドデザインの検討】

- 釧路川流域の今後の取り組みの基本として、釧路川の特徴を生かした流域全体のランドデザインを考える必要がある。
- 上・中・下流の地域ごとに治水、利水、環境に関する問題点・地域特性の整理が必要である。
- 各市民団体等に意見の集約をお願いする方法等を活用し、市民レベルの意見を取り入れることが重要である。
- 流域の議論をするときには、区間ごと、区域ごとに色々な議論をする必要もあるので、どのような視点を切り口として流域を分割するかが、非常に大事になってくる。
- 釧路川流域の、森林は、昭和20年代と比べると、極端に少なくなっており、森林についても1つの課題として議論する必要がある。
- 流域を区域に分けて考えることは必要であるが、流域のランドデザインは全体的に捉えて考えなければならない。保水力の高い集水域をつくるため、植林や放棄された草地の森林化が必要である。
- 今後ランドデザインを作るときに、漁業や酪農、自然保護関係など立場によって釧路川に対する認識が違っているので、これをランドデザインにどのようにつなげていくのか手法等を考えていかなければならない。

【治水】

- 現在の土地利用状況では、流域の保水力の低下により河口閉塞が懸念されることから、流域全体で適正な整備等を考えていく必要がある。
- 釧路川の河床までコンクリートで護岸をしているのはイメージダウンであり、護岸の必要性を説明してほしい。
- 釧路川の治水面の特性を考える場合、他の河川と比較することにより明確になる部分もあることから、それらの情報の整理が必要である。
- 魚類の遡上を考慮し、上流にある落差工等には魚道の整備を検討する必要がある。

【利水】

- 釧路川の水質を考える場合、屈斜路湖のほか、最近ヘドロ状の堆積物が増えているといわれている釧路湿原に点在する湖沼の水質についても考慮する必要がある。
- 流域の土地利用の変化を見ると化学肥料の増加や融雪剤の使用に伴う河川への影響を憂慮している。

【河川・湿原環境】

- 釧路川流域の環境を考える場合の区域分けは、土地利用が促進されている地域や、自然河道として存置されている地域など詳細に分けて考える必要がある。
- 流域の土地利用状況で樹林が60%という数字は意外に多いという印象があるが、原野の状態を呈している樹林地、荒れた落葉広葉樹やカラマツ林の植林地等を一括して「樹林地」としている。樹林地の質も捉えて考えるべきである。
- 流域の自然環境を考える場合、支川の状況が重要である。蛇行を残した河川改修など支川も重視すべきである。
- 中流域の動植物に関するデータが少ない。湿原の後背区域や山間区域などの湿原を支えるエリアの情報を取り入れる必要がある。
- 魚道については、実際に魚が上れるように整備することが重要であるとともに、上った魚が繁殖できる場所があるという川の機能を維持することが大切である。
- 環境と利水は関係が深く、地域で考える課題であるため、自治体や大学生、高校生などが議論できるように、行政サイドからデータ等の提供をして欲しい。

【維持管理】

- 本川・支川の河川管理の実態について、地域住民にもわかりやすい形での情報の整理が必要である。
- 河川管理マップは、河川を利用するユーザーにとって、分かりやすい形で積極的に情報発信されることが非常に大事である。
- 流域内に釧路湿原国立公園と阿寒国立公園を擁しているため、国立公園の管理と河川管理をうまく連携させて、質の高い流域管理を考えていかなければならない。

【釧路川下流域の検討】

- 釧路川下流域(幣舞橋～旧雪裡川合流点)の整備計画については、部会を設置して検討する。
- 河岸の整備にあたっては水質の浄化を考慮し、河岸の船着き場や釣り場等の施設が末永く有効に活用できるような整備の仕方を考えていく必要がある。
- 下流域の整備については、高潮に対しても充分検討する必要がある。
- 釧路川と新釧路川を釧路市の柳町公園で結ぶネットワークをベースにした議論があっても良い。